

留学報告④

平成 30 年 1 月 31 日

岩手大学人文社会科学部

地域政策課程 2 年

中田秀樹

【留学テーマ】「岩手発」で再生可能エネルギーの浸透を一欧州の先進事例に学ぶー

【留学期間】2017 年 10 月～2018 年 2 月

【留学先】ドイツ・スイス

こんにちは。再エネ・創エネ導入の先進的事例を学ぶため、ドイツ南西部のヴァルトキルヒという街に留学しております、中田秀樹と申します。報告の間が空いてしまいましたが、前回のレポートの更新後にあったことなどを数回に分けてお伝えしようと思います。

今回の近況報告（もう近況ではないですが）はハイデルベルクのエネルギーショップについて、視察研修の方はドイツの住宅事情についてお伝えしようと思います。宜しくお願い致します。

《近況報告》

先日、ハイデルベルクの市街地にあるエネルギーショップに行きまして。

ハイデルベルクでは、stadtwerke heidelberg という都市公社が中心となり、環境政策が進められています。今回はその中でも、再エネや地域熱供給に携わる店舗に行きまして。店内にはパンフレットや冊子などが設置されており、また希望すれば職員の方と相談することもできるようでした。

ドイツでは、こうした多くの都市公社・村公社が地域のエネルギー供給やごみの回収、公共交通機関の運営など、公共性の高い事業を行っており、街中でも公社のロゴをよく見かけます。



《視察研修③》ドイツの都市計画

視察研修の中では、ドイツの住宅地を題材に学ぶ機会もありました。具体的にはフライブルクのヴァインガルテン地区、ヴォーバン地区を視察し、都市計画のこと、建物の断熱化改修のことなどを学びました。今回はドイツの都市計画について書いていこうと思います。

ドイツでは非常に線引きのはっきりした都市計画が立てられています。詳細なものでは街路樹の一本までもが記載されており、この都市計画が住宅の価値を守るのに一役買っています。ヴォーバン地区ではこの都市計画の制定にあたり、住民参加の上で、公共交通の活用や環境配慮の街づくりが盛り込まれました。住宅の配置や駐車場の立地などに工夫を重ねることで、公共交通での移動が自家用車での移動よりも便利になるような仕組みが整えられています。

また、ドイツの都市にみられることのあるコンセプトとして、「ショートウェイシティ」というものがあります。住居や商店を集約させることで、住民の一回当たりの移動距離を短縮し、街の活性化、公共交通利用の促進、バリアフリーなどの効果が期待できるとのことです。この実施についても、住宅街が無秩序に拡大していくことを防止できるという点などにおいて、都市計画が活躍しています。



←こちらはハイデルベルクで撮影した写真です。一階が店舗、二階以上は住宅となっているこのタイプの建物はよく見られます。

通常、建物の所有者個人にとっては、一階部分も住宅として貸し出した方が敷地当たりの収入が上がり、合理的です。しかしそこを都市計画や補助金などで誘導することで、ショートウェイシティのコンセプトを維持することができます。

次回は近況報告にて、現在滞在中のヴァルトキルヒについて紹介します。また視察研修については、建物の断熱化について触れます。宜しくお願い致します。